We are …

Team Sustainability in Action

TSA Report 2017

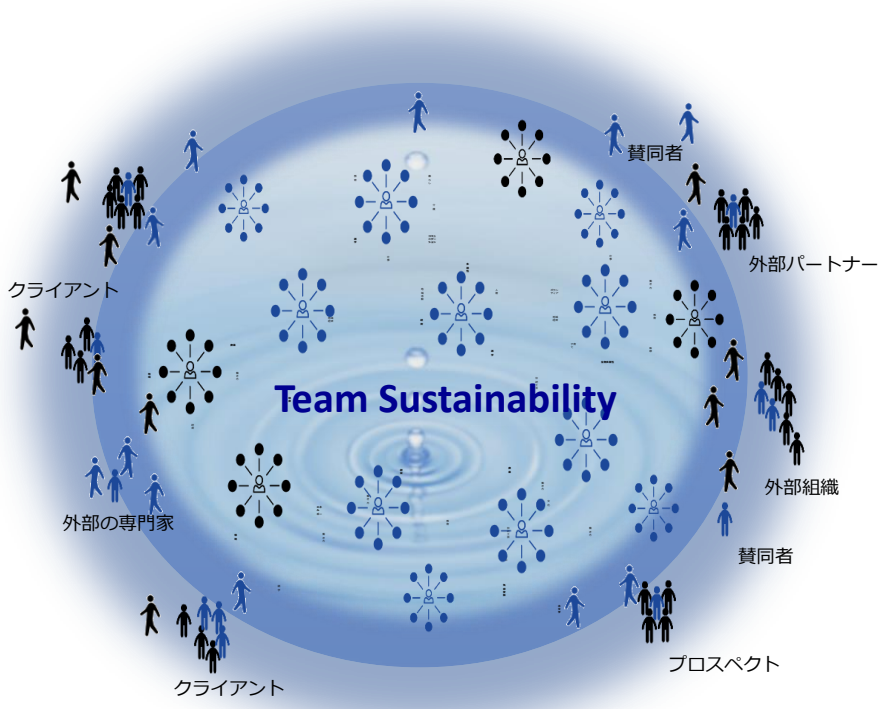
Concept

このレポートではTSAの1年間の活動についてお伝えします

TSAは、新しい働き方とサステナブルな社会の実現をめざします。

Team Sustainability

それは従来の「会社と従業員」というカタチを越えて、サステナブルな社会の実現を目指すプロフェッショナルによるネットワーク。
それは世界中に広がる「個」が、距離や時間を超えてつながり一つのチームとして動いていく組織概念。
それは一人ひとりが知識や経験、思考や実践をつみかさね、アイデアを紡ぎだしながら、新しい発想と行動を志す働き方。
それは共感をベースに各々が持つ専門知識やスキル、ライフスタイルを最大限に活かしながら常識を突破していく共同体。



Team Sustainabilityに共感したメンバーが、ゆるやかにつながり、響き合いながら、
「個」が輝くサステナブルな社会の実現に向けて小さな実践を積み重ねていくための機会を創造・共有するプラットフォーム。

それが、TSA (Team Sustainability in Action) です。

Highlight (Life)

一人ひとりが、波を起こす一滴の雫になる

TSAメンバーは、一人ひとりが、サステナブルなライフスタイルをめざします。

チームでの仕事に大きなやりがいを感じています

前田 真砂子
プロジェクトマネージャー

「言葉が好き」「環境問題に関わる仕事がしたい」という昔からずっと抱いてきた思いを実現できる仕事にたどり着きました。翻訳という自分の好きな仕事を通じて社会に働きかけられるところに意義を感じます。
日英それぞれのネイティブが組むチームだからこそ、最適な翻訳をご提案できると感じています。

ポートランドで“Be Happy”を大切に、毎日を送っています

Stephen Jensen
翻訳者

働きすぎず、自分にとってのベストバランスを維持し、絵を描いたり、キャンプしたり、家庭菜園をしたり。
サステナブルな街づくりを大事にするリベラルな町・ポートランドで、弱さや悲しみを含め、自分に正直にふるまい、Happyな毎日を送っていきたいです。

取り組みの社会的価値がさらに向上するよう支援していきたい

佐藤 百合枝
プランナー

ENWで主に調査分析のプロジェクト進行を担当しながら、明治大学で社会的投資やインパクト評価の調査・実務を行っています。国際開発の現場やCSRの仕事を通して、社会と活動主体双方にとって意義ある取り組みとは何かを考えるようになりました。企業の取り組みがもたらす社会的価値がさらに向上するようご支援していきたいです。

実験精神を大切にして、1つ1つの仕事に丁寧に取り組みたい

硲 勇
デザイナー

ウェブサイトのデザイン・構築と、印刷物のデザインを主な仕事とする一方で、革製品を制作、販売するプロジェクトH&Craftsmanshipの運営を自主的に進めています。
疲弊しない環境づくりが新しい表現や技術、プロセスを試す余裕、仕事の質の向上につながっています。今後も実験精神を大切にして、一つひとつの仕事に対して丁寧に取り組みたいです。

「好き」を仕事に～エコライター＆英語講師として活動中！

曽我 美穂
ライター

「ライターの仕事は楽しい！」というワクワク感と、大切だと考え続けている環境問題に社会の関心を向けたいという思いで、環境関係やエコ家事の記事執筆と編集をしています。また、英語や国際交流の楽しさを伝えるために英語教室での指導もしています。
自然豊かで人が暖かい栃木県で、テニスやウクレレ、ヨガなど「やりたい！」と思ったらどんどんチャレンジしています。

翻訳と環境活動を通じてサステナビリティを広めたい

Randal Helten
翻訳者

日本でビジネスと日本語を学びながら環境活動にも積極的に参加していた経験を生かして、バンクーバーでCSRや環境関連の報告や記事などの英訳を仕事としています。また、国際環境NGOの理事として環境保護の活動も続けています。
愛犬と一緒に森や海を散歩したり、泳いだり、ブルースハープを弾いたりする時間も大切にしています。

Highlight (Team)

個を起点としたチームで目指すのはかけ算による相乗効果

TSAメンバーは、チームとして、サステナブルな働き方の実現をめざします。

●TSA News

毎月2回、メンバー限定のメールマガジンTSA Newsを発行しています。プロジェクトの舞台裏、メンバーの近況報告、イベント案内やミニコラムなど、離れていても、今のENWを感じられる内容です。

●ミニプロジェクト

小規模の調査やプロボノの翻訳、ENWの発信コンテンツ制作など、クライアントからのご依頼以外のお仕事をメンバー限定でお願いしています。ご自身のスキルを活かしたり広げたりする機会として位置づけています。

●働き方ミーティング

2017年4月に東京で集まれるメンバーで「2035年の働き方」を参考資料に「自身が目指す働き方」についてミーティングを実施しました。普段はほぼ100%オンラインですが、顔を合わせて「急がないけど大事なこと」を話す時間は貴重です。

●勉強会

「組織に属していないと勉強やスキルアップの機会が少ない」との声に応えて、専門知識を身に着け、磨くための勉強会を開催しています。
2017年は、GRIスタンダードやIIRCなどの情報開示、効果的なグローバル表現についての勉強会を開催したほか、働く人の健康を考える自主研究の中間報告会を実施しました。

●シェア会

TSAメンバーに聞いてみたい、教えてほしいことがある人がホストになり、1時間程度のオンラインの「シェア会」を開催。ゲストやホストだけでなく参加者にも獲得したポイントに応じて各地の美味しい特産品が届きます。
「プロに聞く写真の撮り方」「地元でできる国際交流」などを開催しました。

●FBグループページ、ENWの本棚

Facebookの非公開グループページで、気になる情報をシェアしたり、メンバーが自身のプロジェクトを手伝ってくれる人募集したりしています。
オンラインの「ENWの本棚」では、業務のために購入した書籍の一覧を共有し、貸し出しを行っています。

Highlight (Works)

サステナブルな社会の実現に向けて、プロフェッショナルなサービスを届けます。

＜言語・コンテンツ＞

◆ソーシャル系（NGO発コンテンツ）

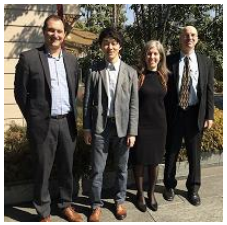
◆CSR系（企業発コンテンツ）

・CSR・環境・ダイバーシティレポート
（食品、金融、保険、自動車、飲料、住宅設備、エンターテインメント）
・Honda 環境ドキュメンタリーFace
・DJSI、ESGアンケート回答支援（食品、保険、不動産）
・CSRコンテンツ制作（消費財、エンターテインメント、住宅設備）
・英文レポートレビュー

＜調査/分析＞

・ GRIスタンダード・統合報告視点でのレビュー、情報開示分析・支援（エネルギー、食品、鉱業、輸送、他約20社）
・SDGs視点でのマテリアリティ考察支援（通信、エネルギー）
・人権方針策定支援
・CSR研究会事務局
・社会課題に関する調査（水、無電化地域における再エネ導入、コンパクトシティ、環境・CSR年表）

＜エンゲージメント＞

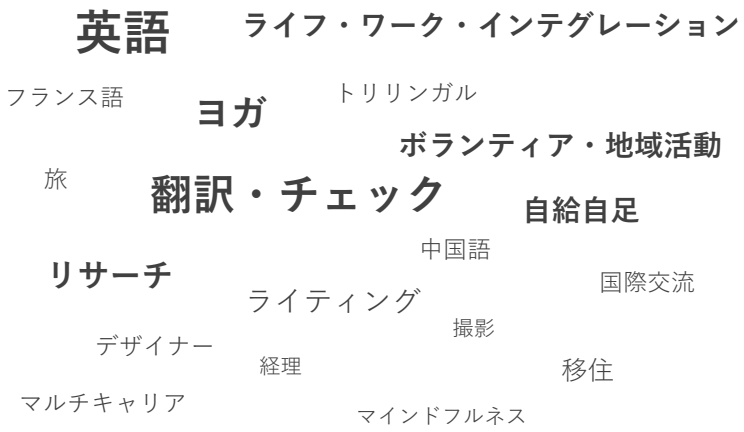


・ ソーラーランタン10万台プロジェクト事務局
・米国ESG投資機関日本企業ヒアリングコーディネート
・ステークホルダー調査・ダイアログ（通信、メーカー、エンターテインメント）
・朝日ジャーナリスト学校「ジェンダーとメディア」シンポジウム講演

TSA members ～こんなひとがいます～

TSAのダイバーシティ

一人一人の得意なこと、好きなこと、興味のあること。
生き方、働き方、暮らし方。
多様な個のすべてが私たちの前提であり、強みです。



多様な働き方を応援

子育て、介護、自身の病気など、様々なライフイベントに直面した際も働き続けられるよう、応援しています。

山本　香
翻訳者・翻訳コーディネーター

勉強を続け、仕事に活かしていきたい

保育園児の娘を迎えに行く時間まで集中して仕事をしています。定常案件や、1～2か月間のプロジェクトに参加している間は、常に翻訳者、コーディネーターやプロジェクトリーダーと言ったメンバーと協力して進めます。チームとして「大変ですよね」「頑張ったよね」と励ましあえる関係性が良いなあ、と思っています。

翻訳は勉強を続けることがとても大切。きちんと伝わる文章を書くために、最近は日本語の勉強をしています。以前からオンラインなどの翻訳講座も受け、現在も続けています。忙しくても、勉強時間をあらかじめスケジュールに組み込み、仕事と同じような感覚で続けています。知らないことを知ることが好きなので、さらに様々な勉強をしていきたいと考えています。

国内外に広がるチーム　42 名(2017.12時点)

東京、千葉、神奈川、埼玉、栃木、石川、長野、愛知、兵庫、香川、福岡、鹿児島・・・

米ポートランド、加バンクーバー、ニュージーランド、オーストラリア、フランス、ドイツ、オランダ、フィンランド・・・

Dialogue

Our way back and front
～これまでの歩み、そして、これから～

創業15周年。これまでとこれから

理想の働き方を求めて、スタートしたTSA

二口：野澤さんと初めてお会いしたのは、 2006年のJapan for Sustainabilityのボランティア・ミーティングでしたね。当時私は英訳ボランティアチームのお世話役で、会がスムーズに進行するようにインターンとしてきびきび動いていた野澤さんを覚えています。私は当時ENWにフリーランスの翻訳コーディネーターとして関わっていました。

野澤：ぼくが関わりだしたのはその１年後ですね。当時は大学４年、卒論を書きながら仕事を始め、卒業後2008年4月からフルタイムとなりました。

二口：今振り返ると、 その年の合宿がTSAの原点につながっていますね。当時のメンバーと「こんな働き方をしたいよね」「個をベースにしながら仕事の関係を越えてつながれたらいいね」と話したことを覚えています。 みんなが共通して関心があったのが「個」への想いと「働き方」でした。

野澤：チーム作りに興味があったので、チームと働き方の核となる部分をみんなで作り上げたことがとても印象に残っています。

コンセプトを一歩ずつ形へ

野澤：2008年のミッション制定時に『Team Sustainability』というコンセプトが誕生しました。それをTSAという場にしていきたいと考え始めたのが2010年頃。SNSの活用など模索したものの、忙しさに追われて力を入れられず、休眠状態が続いていました。その後、中期計画切り替えのタイミングで再始動しました。

二口 芳彗子
エコネットワークス
取締役

二口：野澤さんがCOOになった14年秋のことですね。この頃からTSAが本格的に動き出した感があります。

野澤：やはり仕事が基盤になると思い、「この指とまれ」形式のミニプロジェクトの募集を始めました。また相手もこちらを向いていることが重要なので、参加・継続の意思確認を毎年行うようにしました。

二口：新しい方には、業務への関わりが本格化する頃にご案内して「出入り自由」であることもお伝えしていますね。「シェア会」も月１回程度開催されるようになり、活動の幅や広がりが出てきました。

みんなが「旗」を揚げられる場を目指して

野澤 健
エコネットワークス
代表

二口：これからはイベントやプロジェクトごとに誰かが手を挙げてリーダーになり、他の誰かがフォローにまわる、というように、自ら手を挙げて進めていく形にできたらいいですね。

野澤：仕事やキャリア、スキル、ネットワークなど、関わる人たちが互いの強みや関心を持ち寄り、協働することで高め合い、新しい価値を創っていく、そんな場にしていきたいですね。その前提となるのが、一人ひとりがやりたいこと、伸ばしていきたいことを、より明確に表現することだと考えています。

二口：あるメンバーに、一人では対応できないような依頼が来た場合にTSAに呼びかけ、それぞれの専門性を生かして実現する。そんな自主的な動きが生まれる場となってほしいです。ENWという組織を介さないケースもあっていい。距離を超えてTSAのネットワークが強化されるのが理想です。

野澤：経済的な側面に関しては課題もあり、ENWからの収入が一定レベルに達しているメンバーは一握り。仕事の波が出てしまうことへの問題意識を共有しつつ、一緒になって「どうやって仕事を作っていけるか」を考えていきたいです。
　個人のR&Dはそうした取り組みの一つで、メンバーがこれから専門性を育てていきたいテーマについて研究しています。「働く人の健康を考える」はその一例ですが、メンバーのライフテーマであり、ENWにとっても大事なテーマについてまとめることができ、とても良かったです。

二口：「これに取り組みたい」と、肩の力を抜いて言い合える雰囲気をもっと作っていきたいです。

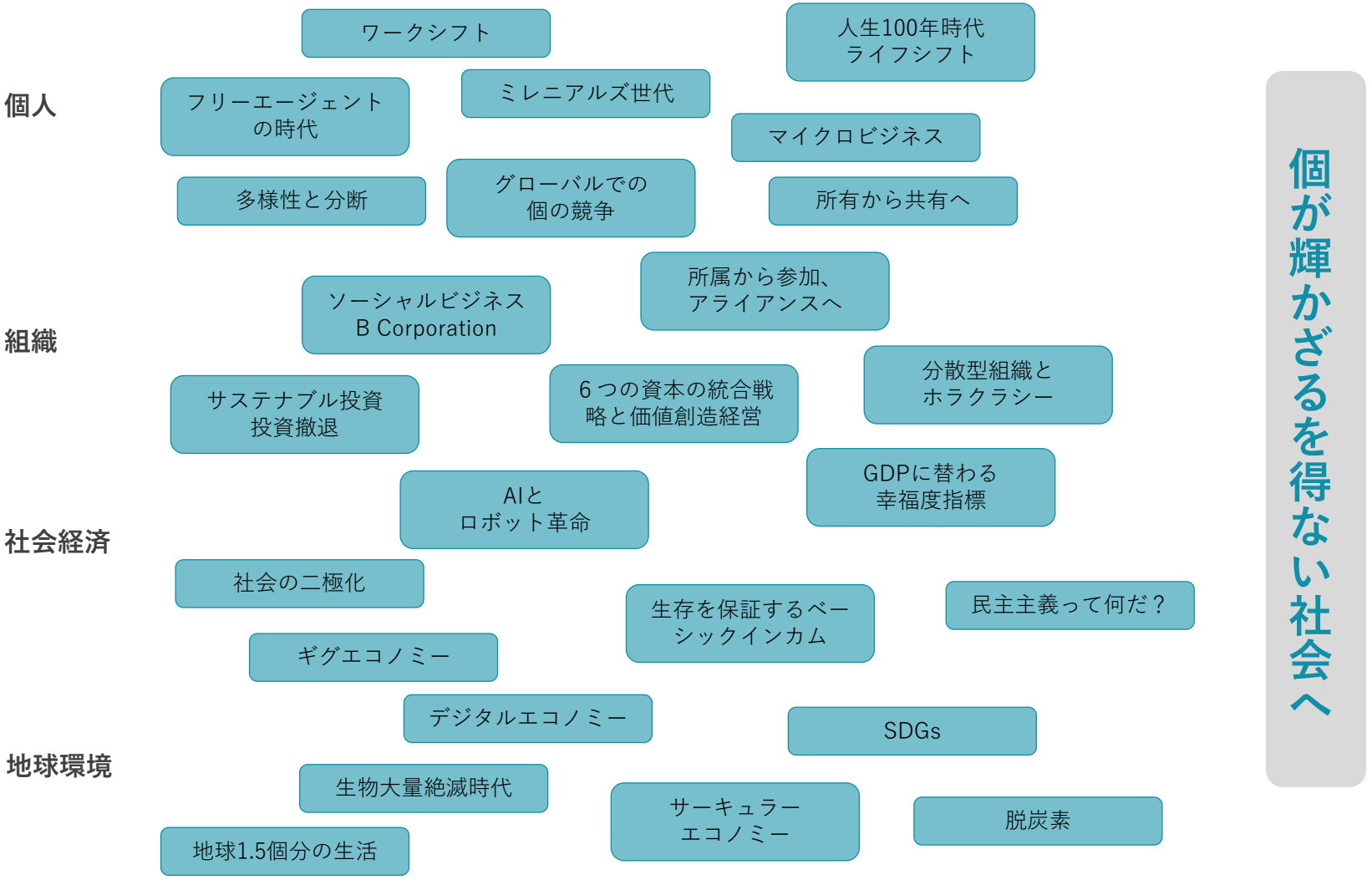
野澤：そのためには「余裕」も大事ですよね。ぼくの理想は8割の働き方。2割の余裕があると、自分のやりたいことが見えてきます。

二口：いいですね。これからは、TSAという場でより多くのメンバーのみなさんに、ご自身の「旗」を揚げていただきたいですね。

Megatrend

社会の流れを見渡してみえてくる、大切なこと

サステナブルな社会の実現に向けて、大きな変化が起きています。

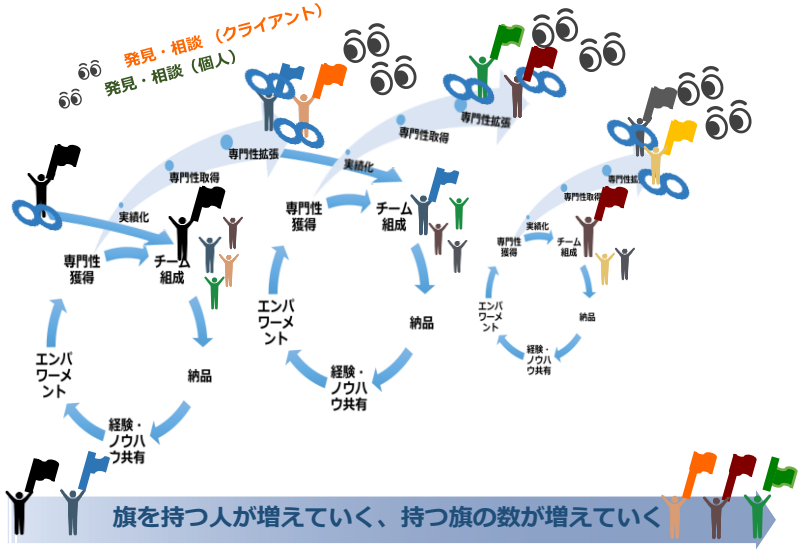


TSAは、「個」が輝くサステナブルな社会を実現するため、2030年の組織のあり方、個人の働き方のロールモデルをめざします。

◆ 一人ひとりが立てた旗が、仲間と仕事を呼び寄せる

旗とは・・・

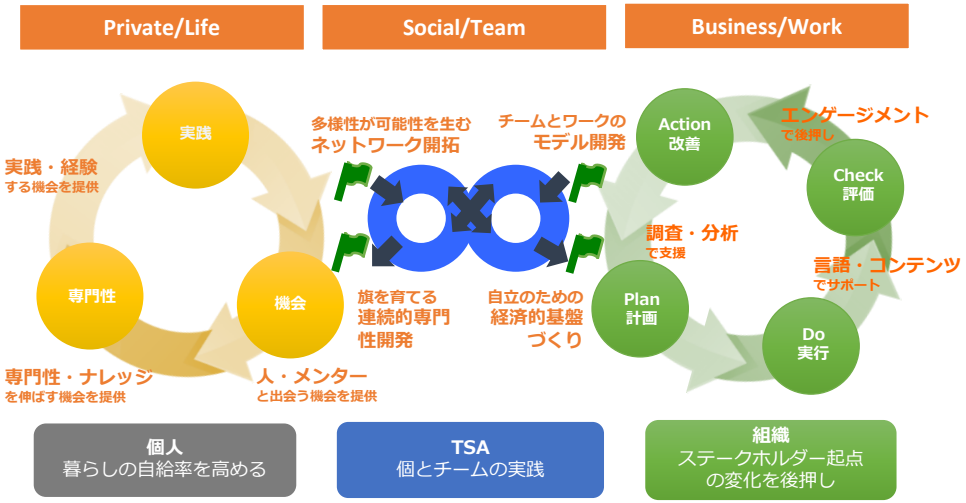
- ✓ 個々の得意・好きに根差す
- ✓ 生き方まで含めた広義のスキルや知識、熱意や関心
- ✓ 熟達を目指しアップデートを続ける
- ✓ 連続的に広がっていく
- ✓ 変化があって当然



◆ 旗を起点に混ざり合うブレンディングモデル

目指すのは・・・

・個の関心から生まれた旗が呼び水となりプロジェクトが生まれる
・組織向けのプロジェクトで得た経験が個人向けに還元され、新たな旗を育てる
・共感し響き合う個が壁を越えてつながり、個と組織の変化を後押しする
・TSAはそうした機会を創りだし、実践し、変化の触媒となる



Future Step

2030年に向けて、TSAは、このような取り組みを進めていきます。

◆新しいチャレンジ

1．AI時代を生き抜き、暮らしの自給率を高める

2．エンゲージメント志向を徹底しステークホルダー起点の
　変化を後押しする

3．ホラクラシー型チームの実践

◆乗り越えていく課題

✓　距離を超えるバーチャルなチーム運営

✓　従来の個と組織の契約形態をどう超える

✓　社会が保障してくれない部分をどう補うか？

✓　個人への正当な対価とフェアな配分

✓　やりがい搾取でないお金以上の関係性作り

✓　組織と個の絶対的な力関係の乗り越え方

✓　グローバルの壁の克服（文化、言語、規制、風土）

発行日：2018 年 1 月

発行：有限会社エコネットワークス
〒252-0186 神奈川県相模原市緑区牧野 4610 藤野倶楽部ハウス A
http://www.econetworks.jp

掲載内容の無断転載を禁じます。 ©2018 EcoNetworks Co. All rights reserved.